

企業スポット

(株)ワン

なりすまし被害者が加害者に 「送信見守り隊」が出口対策の盲点をつく

【TDB企業コード：201812963】

(株)ワンは、コンピューターサーバーのシステム設計・構築、導入から運用・保守まで一貫したサービスを提供するシステムインテグレーター。

今回自社開発した“送信見守り隊”サービスは、社内情報のセキュリティ強化が叫ばれる中でこれまで盲点だった送信メールの危険性に警鐘を鳴らすものだ。

■出口対策に有効な「送信見守り隊」■

大企業を中心に多くの企業は電子メールのセキュリティ対策を行っているが、そのほとんどはファイアウォール、ウイルス対策など受信メールの防御、入り口対策だけで出口対策はなされていない。メールの出口対策として社外発信制限などはあるが、送信済みのメールについては個人のメーラーでしか管理していない。標的型攻撃メールとは知らずに返信してしまい、社外へウイルスメールが拡散したことに気付かないまま時間が経過し、送信したことも忘れてしまうことがある。企業から出るメールによって相手に被害がでると加害者になる。攻撃を受けた自身が知らないうちに加害者になりうるのだ。

意図せず出したメールについては、大体が顧客や被害を受けた側の指摘を受けて初めて気付くことになる。外部から指摘を受けてからメールサーバーの膨大なログを調査し、該当メールを探しだし、他にも同様なメールは無いか調査するとなると多くの時間・人員が割かれ、原因の特定に時間がかかれば、それだけ被害が拡大することになる。標的型攻撃のメールはアドレスを詐称していることが多く、送信者欄にある名前で判断していると攻撃者に返信してしまう。こうしたウイルス感染メールと気付かずに社外に送信してしまった時、顧客からの指摘ではなく自分達の方が先に気付ければ、クレーム対応や善後策を取りやすい。送信したメールを



「気づかないことに気づく」吉田恒社長

確認し、実は知らない相手にメールを返していないか見直したい。そうしたメールの出口対策の一環として、社内から社外へ送信されたメールの履歴管理サービス、「返信見守り隊」の導入が有効だ。

■気づかないことに気づく■

「返信見守り隊」は送信日時・送信者・受信者・件名（オプション）だけを集め集計するソフトだ。これを管理者が定期的に確認、もしくはメールユーザー個人が自分の送信履歴を確認することで、ウイルスなどにより意図せずに送信したメール、なりすましメールへ返信していないかを随時確認することができる。吉田社長は言う、「ISMSの認証をとって情報セキュリティに力を入れている企業でも社員の方々と話をすると、送信メールの危険性を感じていない人が多いと思いました。皆さん、メールのログを残しているだけでそれだけで安心してしまい、それを監査することはしていない。とは言っても返信見守り隊は社員のメールを監視するシステムではありません。監視が目的でなく企業側が加害者にならないための対策、気づかずに加害者になってしまった時に迅速な対応が取れるようにするための道具です」。人の気付かないことに気付くのが吉田社長と「送信見守り隊」の真骨頂だ。



株式会社ワン

本社 川崎市川崎区砂子2-6-27 横山ビル3-A

代表者 吉田 恒氏

電話番号 044-211-3970

資本金 3800万円

設立 1998年（平成10年）8月

目的 コンピューターサーバーの構築及び保守